


上手な演奏が音楽？

私は *NO* だと思う。

楽器が演奏できるようになることや歌が上手に歌えるようになることを指導することだけが音楽教育ではないと思います。音楽を通して、他者と協調することを伝える。それは、ただ協力して演奏するというのではなく、響きを合わせていくこと。そうやって音を通して他者を知ることは「生きることそのもの」に繋がると言えるかもしれません。



早川 倫子 HAYAKAWA Rinko	専門	音楽教育学	
	研究キーワード	音楽性 音楽カリキュラム 音楽教師の技 歌う行為 子育て	
教育学域 教授	授業内容	主要研究課題	もっと知るには 
大学院：教育学専攻(修士課程) 担当			
学位 博士(学術)(東京藝術大学)			

早川の音楽教育学



自分の娘を含む乳幼児の音楽的発達を15年以上研究してきました。日常生活を記録し続けたデータから、人間の音楽性がどのように芽生え、育っていくのかを解明。その知見を学校教育に活かす研究を進めています。

01 生まれながらに持つ「音楽性」を教育の視点に活かす



演奏が上手なことから、音楽教育の研究は少し分けて考えています。音や音楽を通じた子どもの成長に興味がある方は大歓迎です。ワークショップなども盛んで、さまざまな音楽教育の研究に関する環境が用意されています。

05 実技が苦手でも音楽教育研究は可能

02 「歌うこと」の意味
母親にとって



私自身が「歌って子育て」をする中で、母親が子育ての中で歌いかけることは、子どもの成長だけでなく、母親自身にとっても意味があるのではないかと思うようになりました。今は母親が歌うことの意味を、大規模な質問紙調査や、母親へのインタビュー調査(語りの分析)から探る研究を進めています。

06 声を合わせることは自然にできる



授業の最初に、みんなで「なべなべそこぬけ」を歌います。音の高さを示さずに一斉に歌い始めてもらいます。最初はピッチがバラバラでも、歌い重ねるとだんだん揃ってきます。これは、私たちが成長する過程で、日常生活の中で声を合わせる経験を自然としているからです。少し視点を変えれば、「声を合わせる」意味がわかってくるかもしれません。

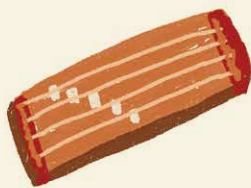


03 熟達した音楽教師の技を科学する
アイトラッカーやモーションキャプチャー分析ソフトを駆使し、熟達した音楽教師の技を科学的に解明することを試んでいます。例えばリコーダー演奏の様子を、熟達した音楽教師はどのように見取るのか？また、指揮によって表現の意図をどのように伝えるのか？視線の動き、身体の使い方など、言葉では伝えられない技を情報工学の研究者と共に「見える化」する研究に取り組んでいます。



07 音楽は技術と楽しさのバランスで
技術を磨いていくことは、表現者としてももちろん大切なことですが、幼少期から厳しく技術を教え込まれた子は、長続きしなかったり自分らしい表現ができなくなることがあると感じることが多くなりました。「楽しんで学んできた人の方が先が長い」と、モチベーションを重視した音楽教育の可能性を感じています。

04 和楽器文化の継承と国際交流



流派の壁や後継者不足に悩む日本の和楽器文化。一方で海外では人気が高まっています。和楽器を介した国際交流を通じて、日本の学生が自国文化の本質や価値を「逆輸入」で再発見するという、新しい和楽器教育の可能性を実践研究しています。

音楽教育



人の営み

08 100%
教員採用率 100%

とは、少し言い過ぎかもしれませんが、早川ゼミで学んだ学生のほとんどが教員の夢を叶えて巣立っています(教員を志望した学生は100%採用されています)。ゼミでは、採用試験の対策として模擬授業を見せ合ったり、それぞれの関心のある音楽教育のテーマで、お互いに切磋琢磨しながら、研究を進めています。

研究室からの風景
SCENERY FROM THE LABORATORY

音楽による
子育て支援活動

楽器はどうやって音が出ているの？を大切に

幼い子供は、楽器を楽器と認識する前に、モノとしての探索をします。触ってみたり、眺めてみたり、舐めてみたり、振ってみたり、投げてみたり、転がしてみたり、、、さまざまに働きかけながら、モノの特性を感覚的に感じ取っていく様子が見られます。大きくなっても、そうした原初的な視点を大切に、五感を通したさまざまな経験をしてほしいと思っています。

そんな楽器の発音原理を知るために・・・

Part1:
ヴァイオリンの製作者を呼んで
直々に構造解説してもらおう



ヴァイオリンのパーツを並べて、ヴァイオリンの出来上がる過程を教えていただきました。木片から楽器へ、どんな木材？なぜこんな形？そんな疑問が次々に解明されていく、子供たちのワクワクした姿が見られました。

Part2:
ピアノの解体ショー

本物のピアノを解体して、普段見ることができない場所を見たり触ったりしました。身近な楽器でも、音の出る仕組みをきちんと知っている人は少なく、音楽に対する固定概念を取り払うことにもさまざまな発見があったようです。音の出る仕組みがわかり、どんなふうに出すのか？に繋がる経験になったのではないのでしょうか。

こどもと音楽の
素敵な関係を考える場所

子どもの「感創」を育む
(創造性教育)

音の森をつくる
ワークショップ

自然に還る素材だけで森の音を想像し、音で森をデザインする子ども向けワークショップです。子どもたちは、素材や人と関わりながら発見を重ね、音を組み合わせることで森の音を奏でていきます。作品を作り上げます。そのプロセス全体に子供たちの創造性の芽が詰まっています。



岡大こどものミュージアム
を見に来てください

2025年2月に、こどもの新しい姿とある場所「岡大こどものミュージアム」がオープンしました。ここは、ミュージアムだけど、美術館のように常設の展示物はありません。

こどもたちが楽しんだり挑戦したりする姿そのものをオンラインで展示しています。大人もこどもも学べる場所、たくさんの子どもの可能性を見つけてください。



早川 倫子

HAYAKAWA Rinko

専門

音楽教育学

研究キーワード 音楽性 音楽カリキュラム 音楽教師の技

もっと知るには

